

群馬県立玉村高等学校 学校評価一覧表②

(令和3年度版)

羅 針 盤			方 策	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合			
I 特色ある学校づくり に努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	i 全職員共通理解した上で、言葉遣い、挨拶、マナー、身だしなみ等の指導を行い、生徒にはその指導は進路実現に向けて必要不可欠であることをきちんと理解させる。【生指・進路】 ii 生徒に生活の中心を学校に置かせて、授業中において生徒が達成感を感じ、自信を持ってたりするよう、集団とともに個人を大切にしたい指導を展開する。【教務】	C	B	B	・「玉村高校が好きだ」と感じている生徒は、第1回は69%、第2回は79%であり、昨年比では4%増加した。目標値を概ね達成し、数年かけて改善することができた。近年、教員の生徒指導、進路指導を中心とした進路からの指導ある生徒指導が徹底でき、生徒が学習だけでなく学校行事、探究活動にも主体的に取り組みする指導を行っていることが要因であると考えられる。	・教年前の最低値が55%であったことを考えると大きく改善できている。玉高チャレンジプランを中心としたキャリアの取り組みを通して、生徒の自己肯定感を高めることができたと思われる。コロナ禍ではあるが、感染症対策を講じてきたことにより、学校行事や部活動の取り組みをさらに充実させて欲しい。いじめの問題については、未然防止に力を入れて取り組むことで、生徒が安心して登校できる学校にして欲しい。	・本校生徒の実態に即して指導方針の見直しを行い、普段からの規律ある生活指導の徹底すること。生徒が学校行事・探究活動に主体的に取り組めるような指導方法の検討・共有を行うことで、生徒の自己肯定感や自尊心を高めていきたい。 ・他の項目にあるように、さらに人権教育や道徳教育を涵養していくための新しい取り組みを検討していく。
		(2) ぐんまチャレンジ・ハイスクールとして本校の取組である「基礎基本の充実」「コミュニケーション力の育成」「進路選択力の育成」を意識して、自分のキャリアアップの向上を目指している生徒が70%以上である。	i 進路行事、学校設定教科「教養表現」を中心として、すべての教科において、ぐんまチャレンジ・ハイスクールの「基礎基本の充実」「コミュニケーション力の育成」「進路選択力の育成」を意識した授業展開を図る。【教務・進路】 ii 教養表現の学習内容をピブリオバトルを組み入れ、生徒の表現力を高める指導を行う。 iii 教育課程委員会において、実情にあった教育課程を検討する。【教務】 iv 生徒についての情報交換や学習内容に関する意見交換を行い、指導形態を工夫していく。【教務】	B	A	A	・ぐんまチャレンジ・ハイスクールとしての3年間を見通した計画「玉高チャレンジプラン」が職員・生徒に広く周知されており、昨年比で7%の改善があった。今後も、「玉高チャレンジプラン」の整備を続け、生徒自身が具体的にどんなキャリアアップができるかということ伝えていく。	・ぐんまチャレンジ・ハイスクールの取り組みを、「玉高チャレンジプラン」として、具体的に分かりやすきこととして、教師と生徒が同じ目標に向かって取り組むことができ、改善に繋がっているのではないかと。今後も、学校設定教科「教養表現」を中心として、生徒のキャリアアップについての指導を継続して欲しい。	・「玉高チャレンジプラン」の取り組みを継続、発展させるとともに、全職員・生徒が「玉高チャレンジプラン」についての理解を深めつつ、中学校や地域に分かりやすく広報し、周知していくことが必要である。
		(3) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ・Ⅱ・Aの習熟度別の授業、社会と情報、情報処理実習、情報表現実習、表現基礎、マナーと表現Ⅰ・Ⅱの「ティ・ティ」の授業形態に、生徒の85%が満足している。	i 全ての科目において、ICTを活用した効果的な指導や書字・読字に困難を抱える生徒に対する学習支援を実践する。【教務】 ii 「学び直し学習」を取り入れた生徒にとってわかりやすい授業を展開する。【教務】 iii 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に向けた職員研修を積極的に行う。【教務】 iv 朝の読書推進委員会を置き、朝の読書の推進・改善・充実について検討する。【教務】 v 定期的に図書通信(Library)を発行して、書籍の紹介等を行う。【教務】 vi 図書館に足を運んでもらえるような環境・雰囲気づくりに力を入れ、生徒の読書意欲を喚起する。【教務】 vii 授業における図書館利用を促進するための、年間利用計画を作成する。【教務】	B	A	B	・多くの生徒が、本校の特色である習熟度別、少人数、Tによる授業に満足している。今後もいっそう基礎学力が定着するよう工夫した授業を展開する。	・アンケート結果から少人数授業や習熟度授業が十分な効果をあげていることがわかる。さらに生徒の実情にあった、きめ細やかな学習指導を継続して欲しい。	・少人数授業、習熟度授業、T、Tによる授業を継続し、基礎学力の一層の定着を図る。また、学校設定教科の学習内容を精査し、より工夫した授業展開を図る。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(4) 授業がわかりやすいと感じている生徒が85%以上である。	i 授業改善を推進し、生徒の基礎学力の向上と定着を図る。【教務】 ii 放課後の補習や課題の指示を積極的に行う。【教務】	B	B	B	・第2回授業アンケートの生徒の回答で、肯定的な回答率が88%であった。書字・読字に困難を抱える生徒に対するICT機器を活用した学習支援研修により職員の意識も高まり、ICT機器の活用も進み、生徒も授業がわかりやすさを感じてくれた。今後も、生徒も指導力の向上を図り、わかりやすい授業を目指していきたい。	・通年の授業において、協働的な学習形態、双方向の授業となるよう授業改善を行い、ICT機器を活用しながら書字・読字に困難を抱える生徒に対する指導の工夫がなされていた。先生方が教材を取り入れていくこと、変えていくこと、良くしていく姿勢が授業の工夫、改善に活かされていると思える。これからは、生徒たちにとって、わかりやすい授業を心掛けて欲しい。	・わかりやすい授業を心掛けるとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現やICT機器の効果的な活用について実践する場面にさらに増やしていく。 ・令和4年度入学生からの観点別学習状況の評価に向けて、単元の評価規準・単元の目標・授業計画・総括(評価)の方法等をしっかりと作成し運用していく。
		(5) 図書通信(Library)を定期的に(発行予定12回)に発行し、多くの生徒に図書館を利用してもらう。	i 朝の読書推進委員会を置き、朝の読書の推進・改善・充実について検討する。【教務】 ii 定期的に図書通信(Library)を発行して、書籍の紹介等を行う。【教務】 iii 図書館に足を運んでもらえるような環境・雰囲気づくりに力を入れ、生徒の読書意欲を喚起する。【教務】 iv 授業における図書館利用を促進するための、年間利用計画を作成する。【教務】	B	B	B	・図書通信の発行はもちろんのこと、図書委員会の企画発表、新着図書の内容を生徒の導線に掲示して、多くの授業で図書館を活用してもらい、図書館へ足を運んでもらえるような取り組みを検討・実施してきた。スマホ端末や電子書籍の普及により、この数年の図書館の貸出冊数も大きく減少しているが、これからもこの取組は継続・発展させていきたい。	・コロナウイルス感染症対策をしつつ、図書の貸出をも継続していただけたと思う。時代の変化とともに貸出平均冊数が減少し、読書離れが進むではあるが、読書をするこで得られることを伝え、朝の読書等の取り組みを通して、生徒たちの読書意欲を高めていただきたい。	・図書館に足を運んでもらえるような広報活動、環境・雰囲気づくりに力を入れ、生徒の読書意欲を喚起する。 ・授業における図書館の利用年間計画を作成することで、図書館の利活用を促進していく。
		(6) 学力が身についたと感じている生徒が、75%以上である。	i 授業改善を推進し、生徒の基礎学力の向上と定着を図る。【教務】 ii 放課後の補習や課題の指示を積極的に行う。【教務】	A	A	A	・「学力が身についた」と感じた生徒が第1回では80%、第2回では82%であり、昨年度よりも高い数値であり、分散登校中も学びを止めずにリモート授業を実施することができた。また、授業がわかりやすいという回答も大きく影響していると考えられる。	・分散登校中の学習の遅れが心配されたが、リモート授業の実施により学習を継続することができたと思われる。そして、年間を通して素晴らしい成果が得られている。ICTの効果的な活用も含めて、わかりやすい授業を実施できていることが、このような結果に結びついていると考えられる。	・生徒の学習状況や個性を把握し、教育的配慮も取り入れながら、わかりやすい授業の推進、定期考査前の補習等を徹底する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	(7) 各種検定や資格取得を推奨し、のべ5000人の生徒が検定等に挑戦し、50%以上の合格率である。	i 日本漢字能力検定・実用英語技能検定・家庭技術検定・全商検定・文書実務検定・全商情報処理検定などの検定試験を校内で行う。【教務】	B	B	B	・のべ受検者数は346名で、全体合格率は67.1%であった。感染症対策の影響で2年修学旅行と検定日が重複し受検者数が大きく減少する中、昨年度を超える合格率であった。各種検定の合格率は検定によって開きがある中で、それぞれ改善できよう今後の課題としたい。	・感染症対策等の影響でのべ受検者数が減少したが、漢字検定を希望制としたことにより合格率が向上している。英語検定は受検者数・合格率ともに増加することを期待する。資格取得にチャレンジすることで、生徒の意欲向上に繋がる。生徒や先生方の努力が実を結ぶよう期待している。	・計画的な準備を行い、授業内においても資格取得に向けた目的意識を高める呼びかけ、目標値に合格できるような学習を進めていく。
		(8) いじめの防止や早期発見に努め、いじめの解消率が100%である。	i 人権やいじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努める。【教務・生指】 ii 集会時に人権やいじめに関する話題を取り上げる。また、LHR等で人権教育や道徳教育を実施する。【教務・生指・道徳教育推進】	B	B	B	・全校対象のアンケートを年2回実施し、職員会議で時間を掛けて情報共有を行った。また、問題が発生した場合には随時学年集会やクラスへのアンケートも実施し、早期に対処することができた。結果として、現状でできる案件での解消認定をすることができた。	・いじめの問題に対して、真摯に取り組んでいることがうかがえる結果である。指導に関しては、自分のした行為によって、どこまで迷惑を掛け、誰がどんな責任を取ることになるのかということまで丁寧に指導し、生徒の意識改革をする必要がある。	・日頃の指導から生徒の人権意識や道徳的な価値観を高めるとともに、いじめに関する生徒の意識改革を図る。
		(9) 朝の玄関指導、あいさつ運動を1学期に60日、2学期に70日、3学期に50日以上実施する。	i 玄関指導の重要性を理解し、継続して実施する。【生指】 ii 風紀委員、生徒会本部役員を動員してあいさつ運動を実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。【生指】 iii 生徒会の組織を中心に参加生徒の呼びかけを行う。【保健施設】 iv 定期試験期間を利用し、生徒の参加を促す。【保健施設】	B	B	B	・風紀委員会、生徒会本部役員と職員合同で、分散登校中以外のほぼ毎日あいさつ運動を行った。今後も継続していきたい。 ・1学年中心で実施という変更があったが、目的と意義を理解させ意欲を持たせて年2回(1,2学期)実施することができた。	・インターンシップ報告会での生徒の様子から、生徒指導が行き届き、服装の乱れもなく、すれ違う生徒はきちんと挨拶できており、大変すがすがしい気持ちになった。 ・花壇の緑が新しく整備され、見栄えが大変良くなった。花に囲まれた生活は、心に潤いをもたらす効果が期待できる。	・組織的な指導を継続し、あいさつ運動によって基本的な生活習慣の確立を図る。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	5 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	(10) 進路教育を目的とした花いっぱい運動を1・2学期に1回ずつ実施する。	i 進路時の家庭連絡を徹底する。【学年】 ii 遅刻・欠席グラフの作成を通じて、指導の機会を増やす。【生指・学年】 iii 学年指導や成績並びに生活改善保護者会を開催し、生徒への反省と改善を支援する。【学年・教務・生指】	A	A	A	・1月までの遅刻率は1.2%であった。昨年度との比較では同程度であり、良い状態を保つことができた。遅刻に関して個別の指導を丁寧に行い、多くの常習生徒の遅刻を改善することができ、目標値もクリアすることもできた。	・今年度と同様、遅刻者に対して粘り強く声を掛け、遅刻をくり返さないための生活改善指導を行う。 ・遅路手帳を活用させ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、生活の中心を学校に置かせるよう生徒・保護者に呼びかける。	・今年度同様、遅刻者に対して粘り強く声を掛け、遅刻をくり返さないための生活改善指導を行う。 ・遅路手帳を活用させ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、生活の中心を学校に置かせるよう生徒・保護者に呼びかける。
		(11) 1日の遅刻率は1.5%以下にする。	i HRにおけるマナー指導を実施する。【学年】 ii 全職員で入室時の指導を徹底する。【生指・進路】	B	B	B	・89%の生徒、85%の教員が、「職員室に入室する際に服装を直し、適切な声量で用件を伝えることができた」と回答している。我々職員が日頃のマナーも含めた入室指導の方法を次年度にも引き継ぎ、この取組を継続させていく。	・生徒の服装や礼儀は年々良くなっているが、もっと大きな声で挨拶できるようにして欲しい。今後も、生徒が社会人となったときに困らない指導を継続して欲しい。	・礼儀正しい態度を身につけられるよう、あらゆる場面において粘り強く指導する。大きな声で、自信を持って挨拶や用件が伝えられるように指導する。
		(12) 職員室に入室する際に服装を直し、適切な声量で用件を伝えることができる生徒が90%以上である。	i 各学年の行事として年1回実施する。【学年・保健施設】	B	B	B	・校外周辺美化活動を計画どおり実施した。今後も継続していきたい。	・校外美化をすることによって奉仕の心を学ぶ機会となっている。	・環境美化への意識を高め、ボランティア精神を身につけさせる。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	(13) キャリア教育につながるよう、外部機関や外部人材を活用した進路行事を各学年とも年4回は実施する。	i 総合・LHRの時間を利用して、在り方生き方の指導や職業観の育成につながる講演会や学習会を実施する。【学年・進路】	B	B	B	・充実したガイダンス等を各学年とも年4回以上実施し、生徒の進路意識向上に役立てることができた。3密を防ぐ工夫を重ね、できる限り実施していきたい。	・進路ガイダンスでは上級学校のことや各事業所の具体的な就労の様子、インターンシップ事前指導では社会に必要な技能や心構え等を学んでいる。外部講師の活用は、社会へ出て役に立つことを学ぶことができる大変有意義なこと。 ・定期的に発行することができた。今後も、定期的な発行により、生徒・保護者の更なる進路意識の向上に役立てたい。	・外部講師の活用を継続し、キャリア教育推進を図る。
		(14) 進路通信を定期的に発行する。(発行予定12回)	i 実情に即した進路情報提供と意識啓発を目的とした「進路通信」を毎月発行する。【進路】 ii 効果的な進路情報の提供と生徒の進路課題の共有化を図る。【進路】 iii 情報交換会や成績会議において情報交換を行う。【教務・学年】 iv 担任による二者面談・三者面談を充実させる。【学年・進路】 v 進路意識を高めるための進路行事を実施する。【進路】	B	B	B	・93%の保護者が「玉村高校は学校をあげて、生徒の進路実現を支援している」と回答している。情報交換会や成績会議等における情報共有を更に進めるとともに、担任による二者面談・三者面談などとおして生徒・保護者の進路希望の把握に努めていきたい。	・生徒、保護者がともに満足しているというのは、大きな成果である。来年度も充実した情報の発信・収集・分析を続け、面談等を通して生徒理解を深め、全員の進路実現に向けて支援して欲しい。	・進路課題に関する職員間の情報の共有化を図る。また、生徒に進路実現に必要な意欲と態度を体験的な学習等で身につけさせ、計画的な進路学習を展開する。
		(15) 1日の遅刻率は1.5%以下にする。	i 体験的学習やグループ学習、全体発表などの授業形態を取り入れることにより、進路行事へ参加する意識を高める。【進路・学年】	B	A	A	・92%の生徒が「進路行事に積極的に参加することができた」と回答している。学校内のガイダンスのみならず、校外における「進路相談会」等への積極的な参加を今後も推進して、進路意識の定着を図りたい。	・インターンシップ報告会も8年目を迎え、生徒が主体的に活動できていることは大変素晴らしいことであり、どんな職場でも通用する挨拶、コミュニケーション力が身につけてきていると感じた。また、他学年の生徒がメモを取っており、人間力が上がってきていると感じた。	・インターンシップに関する進路学習だけでなく、事前学習と事後学習・報告会を充実し、自ら進路学習に取り組む姿勢を養う。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(16) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために「学校公開」を年3回実施する。	i 1・3学期にオープンスクールを実施し、玉村町回覧板に掲載するなど、広報活動を行う。【教務】 ii 1月の学校説明会の時に公開授業を実施する。【教務】	D	B	B	・学校説明会を2回とも実施し、1月のオープンスクールも実施することができた。玉村町回覧板が中止となっていたが、Webページの内容を充実させることで本校を広報することができた。	・コロナ禍でありながら、学校説明会、オープンスクールの学校公開を実施できたことは素晴らしい。今後も、玉村高校を知ってもらう取組を継続して欲しい。	・今年度は中止となった玉村町回覧板の回収を再開し、ホームページを通じて、本校の特色を含めた学校紹介や最新情報を発信するなどして、本校の広報活動を積極的に行う。
		(17) 本校の教育活動を地域・保護者・中学生等に理解してもらうため、Webページの充実を目指し、更新を月に4回行う。	i 本校の行事や部活動実績について、終了次第なるべく早くアップロードを行う。【教務】 ii Webページに各種案内を掲載する。【教務】	B	A	A	・学校説明会の案内、学校行事等、Webページの更新を計画通り実施できた。15%の保護者が見たことではないと回答しているが、昨年度より7%減少している。やはり、Webページは多大な影響があると捉え、一層の充実を図りたい。	・前期の入試倍率は2.20倍と高倍率で、後期も例年同様の倍率に回復した。学校行事の様子や授業内容のパンフレット等、生徒の活動写真が多く掲載されており、玉村高校の良さが周知できる内容となっていた。今後も、広報活動に力を入れて学校の発展に繋げて欲しい。	・Webページの更新を適宜行い、ホームページや学校案内のパンフレットの内容をさらに充実させることで、中学生・保護者により深く本校への興味・関心を高めたい。
		(18) 入学式後に1学年の保護者会を実施する。【1学年】 (19) 1学期、進路や卒業準備に関する保護者会を実施する。【3学年】 (20) 2学期、修学旅行に関する保護者会を実施する。【2学年】	i 入学式後に1学年の保護者会を実施する。【1学年】 ii 1学期、進路や卒業準備に関する保護者会を実施する。【3学年】 iii 2学期、修学旅行に関する保護者会を実施する。【2学年】	B	B	B	・各学年の保護者会の参加率は90%以上であった。今後も本校の教育活動をより理解してもらえるよう、保護者会を開催していきたい。	・今後も学校の教育活動を保護者に理解していただき、協力体制を確立してほしい。	・事前の広報活動を充実することによって、保護者会の出席率をより高めたい。
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	9 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(21) 学校通信を各学期ごとに発行する。	i 校務委員会が分担し、学期毎に学校通信(よろこぶ通信)を発行し、地域への回覧を依頼する。【校務】	B	B	B	・予定通り3回発行した。今年度は保護者へのオンラインジャーナル(一斉メール)での配布とWebページへの掲載のみとなったが、今後も継続していきたい。	・保護者、地域住民に向けて、地道な情報発信を今後も継続していただきたい。	・定期的に発行している「よろこぶ通信」を通じて、本校への理解と協力を得る。
		(22) オンラインによるアンケートを10回以上実施している。	i 全校生徒がアクセスできる環境が整い、グループウェアやクラウドサービスを活用することで業務の効率化を図る。【教務・進路・渉外・保健】	B	B	B	・全校生徒がアクセスできる環境が整い、グループウェア、フォームを活用してアンケートを実施することができた。次年度も活用を拡大していきたい。	・感染症対策により、一人一台端末の普及が進み、授業以外でも活用されることは大変良いことである。	・グループウェア、フォームの活用を広く、情報集約の効率化や、職員の業務負担の軽減に繋げていきたい。
		(23) ペーパーレスの職員会議を10回以上実施している。	i 職員用のグループウェアを作成し、各自のアカウントを用いて共有フォルダ内の資料を閲覧する形態で職員会議を行い、業務の効率化とペーパーレス化を図る。【教務】	B	B	B	・朝会、校務委員会、職員会議のほとんど資料を、ペーパーレス化することができた。一方で、資料内容にきちんと目を通す意識が必要であると感じている。	・ICT機器を活用してペーパーレス化が進むことは、業務の効率化、経費削減の観点からも非常に良いことである。	・会議におけるペーパーレス化を推進しつつ、必要な情報については、確認・集約するなど、情報共有のミスがない学校運営に努めていきたい。